

新幹線・駅周辺整備特別委員会行政視察報告

1月24日から25日にかけて、委員4名、市当局2名、事務局随員1名で、愛知県安城市、福井県敦賀市を訪問し、新幹線駅舎（三河安城駅・敦賀駅）及びその周辺の開発状況等について視察してまいりました。

■愛知県安城市

【東海道新幹線 三河安城駅周辺整備等について】

安城市は豊田市の南西部に位置し、自動車工業を中心とした機械工業が盛んであり、名古屋市への通勤圏内であることなどから、人口増加が続いています。

また、明治期の用水整備、大正末期からの開墾により、農業の先進地として「日本のペンマーク」とも呼ばれています。

安城市には東海道新幹線三河安城駅のほか、東海道本線、名鉄線の各駅が点在しており、現在の第8次安城市総合計画では、これらのうちの4駅を中心とした拠点形成の推進を掲げ、立地適正化計画を一体的に策定した都市計画マスタープラン等に基づいて具体的な施策を展開してまいりました。

ペンマーク調の外観の東海道新幹線三河安城駅は、東海道本線の三河安城駅が近接しており、両駅付近は人口

が高密度に集積していることから、市として、都市機能の複合化や高度化

また、官

民協働に

よるマネ

ジメント

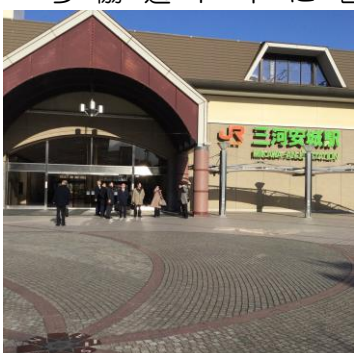
管理を通

じて「協

創のまち

づくり」

の醸成に取り組んでいるとのことでした。



三河安城駅（安城市）

投資の推進が課題であるとのことでした。

■福井県敦賀市

【北陸新幹線敦賀駅周辺整備等について】

敦賀市は加賀市と同様、2020年の北陸新幹線開業を控え、第6次敦賀市総合計画の後期基本計画である再興プランを基に、立地適正化計画の今年度中の策定を目指すと同時に、敦賀駅周辺の整備計画に基づき、土地利用事業を実施してまいりました。

北陸新幹線敦賀

駅は、現

在のJR

敦賀駅の

東側に設

置され、

北陸新幹

線及び特

急電車が停車し、JR敦賀駅は在来線の普通列車のみの停車駅となること

としていた。

敦賀駅周辺では、北陸新幹線が整備される駅東地区は交通結節機能を、



敦賀駅（敦賀市）

駅西地区は民間活力の導入を重視した活用を図ることとし、1月には駅西地区の市有地について、ホテルや商業施設等の複合施設の整備・運営を担う民間事業者と基本協定を締結したとのことでした。

また、この複合施設には「知育・啓発機能」として、書籍販売のほか新たな学びやくつろぎ、憩いの場を市の整備により設置することとし、現在指定管理者を公募中とのことでした。

その際、市営図書館の移設も検討されたそうですが、施設内におけるスペースの確保が難しいこと、移転後の図書館の利活用の具体策が見いだしにくいこと、また何より、にぎわいの創出が必要であるとの理由から現在の計画に決まったとのことでした。

なお、敦賀市内のビジネスホテルの稼働率は90%以上ですが、クルーズ船が寄航する都市として、観光客や訪日外国人客にも対応する必要があると考えているとのことでした。

■視察を終えて

今回視察した新幹線駅周辺施設及び視察先でお聞きした内容を参考に、加賀温泉駅舎及びその周辺地域の魅力・利便性の向上に役立てていきたいと思っております。